

# 病害虫防除所情報 第3号

令和7年7月31日

山梨県病害虫防除所

## 【果樹カメムシ類の防除対策について】

### [発生状況及び今後の見通し]

ア 定点調査ほ場におけるフェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年と比べて多い(図1)。

イ 県下全域の病害虫防除員から果樹カメムシ類が「やや多い」～「多い」との報告が寄せられている。

ウ 気象庁7月31日発表、向こう1か月予報によると、気温は高く降水量はほぼ平年並の見込みであることから引き続き多発生が予想され、果実被害の拡大が懸念される。

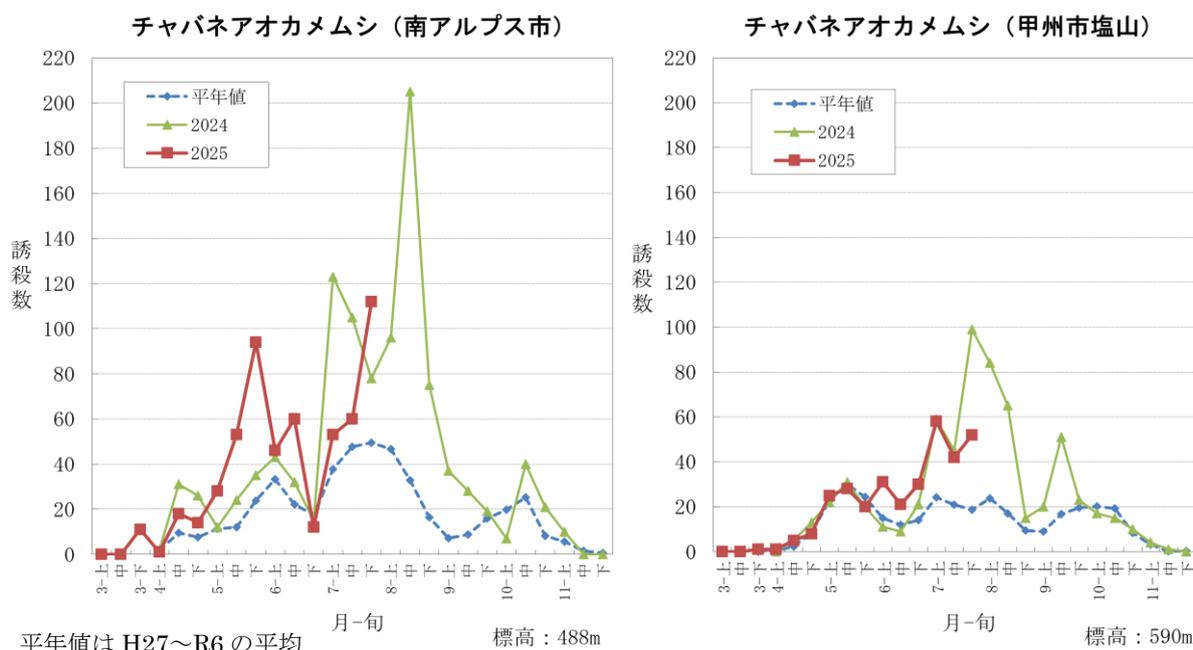


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移

### [防除対策]

- (1) 果樹カメムシ類は山間部から果樹園へ飛来する。飛来量は地域やほ場によって差があるので、カメムシの動きの鈍い早朝または果樹園への飛来の多い夕方に園を見回り、発生状況を確認する。
- (2) カメムシは集合フェロモンを出して次々と集まる習性があるため、低密度時に地域で一斉防除を行うことが効果的である。
- (3) 果実が吸汁されると果皮が変色し果肉が変質するので、被害状況を確認し早期防除に努める。(写真1、2)
- (4) 防除薬剤は表1を参照して、登録内容を厳守し飛散防止対策を徹底する。
- (5) 有袋栽培は吸汁被害を抑制するが、果実と袋が密着すると袋の上からも加害されるため、袋の大きさに留意する。
- (6) 散布後に降雨が続いた場合や集中豪雨があった場合は防除効果が低下し、残効期間が短くなるため散布間隔を短くする。



写真1 シャインマスカットの被害

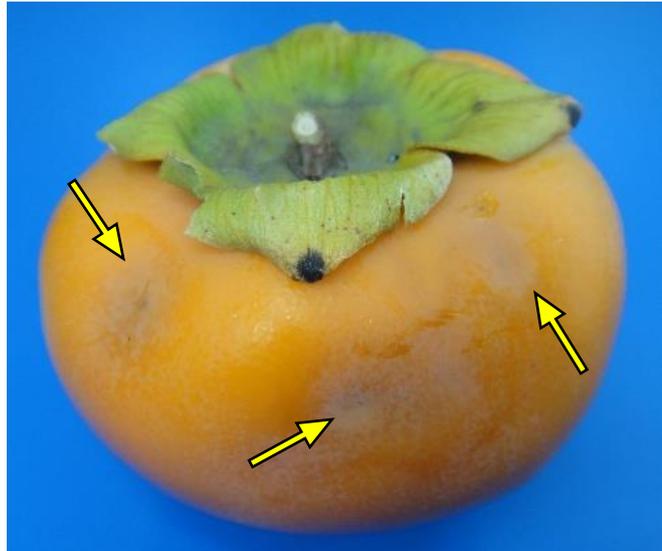


写真2 カキの被害

表1 カメムシ類に登録のある主な農薬

(令和7年7月現在)

分類	RAC	薬剤名	適用作物名						
			希釈倍率、使用時期/本剤の使用回数						
			ブドウ	モモ	ネクタリン	カキ	ナシ	リンゴ	キウイ
合成ピレスロイド系	3A	テルスターフロアブル	※	3,000倍 前日まで /2回以内	3,000倍 前日まで /2回以内	3,000～ 6,000倍 3日前まで /2回以内	3,000～ 6,000倍 前日まで /2回以内	3,000倍 前日まで /1回	3,000倍 前日まで /2回以内
		アーデントフロアブル	※	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	—
		スカウトフロアブル	※	※	※	1,500倍 7日まで /5回以内	1,500倍 前日まで /5回以内	1,500～ 2,000倍 前日まで /5回以内	※
ネオニコチノイド系	4A	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	2,000倍 前日まで /3回以内	1,000～ 2,000倍 前日まで /3回以内
		モスピラン顆粒水溶剤	※	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	4,000倍 3日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	※
		ダントツ水溶剤	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 7日前まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 3日前まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 7日前まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内	2,000～ 4,000倍 前日まで /3回以内

果実汚染、果粉溶脱が懸念される樹種では薬剤選択に注意する。

※作物登録はあるが、適用病害虫としての登録がない。